

【砺波税務署長賞】

「祖父を救った税金」

富山県立南砺福野高等学校一年 田村 優衣

私の祖父は九十一歳。毎回遊びに行くといつもニコニコな笑顔で私を迎えてくれます。幼い頃は、よく一緒にたくさん遊んでくれたやさしい祖父は八十歳後半まで仕事をし健康で元気に過ごしていました。しかし昨年の夏、祖父は熱中症で倒れてしまいました。原因はよくニュースで耳にする「高齢者はエアコンをつけない」でした。まさか身近でしかもちょうど祖父宅へ行っていた日に起きたのでちょっと不安でした。家族は救急車を呼び祖父は乗りこんだのですがなかなか動こうとしません。なぜならば祖父宅は山奥で大きな病院はありません。救急隊員がいろいろな病院へ連絡を取り動きました。広いグラウンドでドクターへリを待っていました。祖父は高齢ということもありすぐに大きな病院へ搬送すべきと判断されたようです。

ドクターへリとは救急医療用の特別な装備を備えたヘリコプターです。医師や看護師が乗り込み緊急で現場にかけつけ初期治療を行い、患者を適切な医療機関へ迅速に搬送する役割を担っています。機内には初期治療に必要な医療機器や医療品が装備、搭載しています。

祖父はドクターへリのおかげもあってすぐに退院でき元気になりましたが、ドクターへリはいったいどのくらいお金がかかる？高額請求されるのではと家族は心配していたところ、救急車と同じドクターへリの出動費用は請求されませんでした。しかし、ヘリ内で行われた医療行為の分は請求されましたが、通常の診療と同様に医療保険が適用されました。

ドクターへリは年間約二億五千万円の費用がかかります。人件費、ガソリン代、点検費用、保険代などこの費用は国と都道府県が半分ずつ税金で賄われています。もしこの国に税金がなかったらドクターへリや、治療費や入院費は莫大な金額が課せられるでしょう。

税金はみんな平等に医療を受けられる今の世の中に欠かせないものだと思います。今元気で生活を送っている祖父を救ってくれた税金、そして毎日何気なく納めている税金で支えられていることに感謝したいと思います。

社会人になったらしっかりと税金を納めていこうと思いました。